

LIBRARY NEWS

CHIKUSHI JOGAKUEN UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE LIBRARY

ガンバレ！「文学全集」

図書館長 大津 忠彦

有名作家の書下ろしとでもなれば、ドーンと平積みされたものが行列組を迎えて、あっという間に捌けて行く昨今ながら、駅前の小規模書店は目立って減少。たまに見かけても、「ビジュアル系」雑誌、コミック誌、実用書、参考書の類あるいは「DVD」が棚を占拠。いわゆる「文学書」は、まず無い。それでは、と全国区の大規模書店へおもむくと、さすがにめばしいものはある。「いまどきホンヤ？アマ〇〇でしょ！」と聞えてきそうである。

現在進行形の作家の単品ももちろん良いが、「文学全集」の魅力はまた格別。作家別、時代別、ジャンル別等々に網羅の編集を経ているので、重宝この上ない。私も、とある作家の全集や私蔵の「近代日本文学全集」に魅了され続けている。「文学全集」では、作品を読むと同時に、「文豪」、「巨匠」、「文壇の雄」と称揚を惜しまれない個性豊かな文士たちの殆どは物故作家であるから、その生き様およびその時代の集大成を鑑賞させてもらうことができる。

ひとつの文学作品も、どのような形態の「全集」に収録されているかによって、編集の妙であろうか、趣きを異にすることさえある。なぜこの作家と同じ巻に、あるいは、この作品がなぜこれと一緒に同巻に収録されているのか、編者の解説にうながされたり、疑問を感じたりするのも一興である。また、「全集」はふさわしさを工夫したであろうその装訂でも愉しませてもらえる（著名な某出版社の社長たちは装訂の堅牢さにこだわるあまり、出来上がり本を床に叩きつけて試した由）。表紙デザインを観て、「クロス」の感触、重さ確かめ、おもむろにページをめくる……。

「文学全集」は、しかし残念ながら、個人的に所有しづらい。購入費は安価ではなく、買っても保管がたいへん。だから図書館はありがたい。本学附属図書館にもいろんな種類の「文学全集」がズラツとならんでいる。前を通ると、年老いた恩師にあったような心持ちをおぼえ、1巻抜き取られた跡があれば、息の長いその現役ぶりに低頭したくさえなる。

インド哲学と辞書

文学部 英語学科 准教授 小林 久泰

辞書の電子化に伴って、一番恩恵を受けたのは、もしかすると僕たちインド哲学研究者かもしれない。古代インドで使われていたサンスクリット語（梵語）を読解することを第一の目的とするこの研究分野では、とにかく参照しなければならない辞書の数が半端ではない。学生時代、日常的に僕が持ち歩いていた辞書は、まずサンスクリット語を読むための梵英辞典二種、チベット語（蔵語）を読むための蔵梵辞典、蔵英辞典二種、さらには英語で書かれたこれらの辞書を理解するための英和辞典。これらに加えて、先学の研究がドイツ語やフランス語で書かれている場合には、さらに独和辞典や仏和辞典を持ち運ぶ必要があったし、時には経典の漢訳を読むために、蔵漢辞典なども用意しなければならなかった。僕の所属していた研究室では皆、登山用の特大のリュックにそれらの辞書を詰め込み、毎日の予習に追われ、常に睡眠不足の状態で、フラフラ大学構内を移動するのが常であった。"walking dictionary"ならぬ、"walking with dictionaries"である。

『墮落論』などで有名な文豪、坂口安吾も、大学時代、インド哲学を学んだそうである。彼も、その時の苦労を次のように語っている。

「按吉はどこでどうして手に入れたかイギリス製の六十五円もする梵語辞典を持っていた。日本製の梵語辞典というものはないのである。これを十分も膝の上でめくっていると、膝関節がめきめきし、肩が凝って息がつかまってくるのであった。これを五時間ものせている。目がくらむ。スポーツだ。探す単語はひとつも現れてくれないけれども、全身快く疲労して、大変勉強したという気持ちになってしまうのである。単語なんか覚えるよりも、もっと実質的な勉強をした気持ちになる。肉体がそもそも辞書に化したかのような、壮大無類な気持ちになってしまうのである。」(坂口安吾『勉強記』より)※

電子辞書、オンライン辞書、CD-ROM 辞書などの普及により、随分と僕たちも身軽になった。重たい辞書を運び、引く「スポーツ」もしなくてよくなった。しかし、それとともに、勉強してるという実感も薄れたことに一抹の寂しさを感じる。

※岩波文庫『風と光と二十の私と』所収
4号館図書館書庫1層 913.6/Sa28 にあります。



★学生図書委員からひとこと★
～感想・成長したこと
学生のみなさんへのメッセージ～

今回の図書委員もまた有意義なものとなりました。特に今回初めて行った「ブックハンティング」では、今まで見る事なかった本やテーマに出会うことができました。次の学生図書委員にもまた立候補したいです。(藤)

選書において、ただ自分が読みたい本を選ぶのではなく、学生にどういった本が求められているのかに応じたり、作品のみならず図書館に興味を持って貰えるようにしたりすることに重点を置くようになり、委員として成長できたと思います。(酒井)

成長したことは、自分から積極的に行動したことだと思います。そして、良かったことは、学生の皆さんが、自分のおすすめの本に興味を示し、その本を借りたことです。そのときは、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。(水木)

良かったことは、学生図書委員を通して同級生や先輩方と接する機会が増え、交流が深まったことです。

成長したことは、たくさんの本に興味がありませんという人にどうしたら興味をもってもらえるか、これまで以上に考えるようになったこと、自分の意見をより積極的に相手に分かりやすく伝えようとする姿勢をもつようになったことです。

今後、地域の図書館に行って学生図書委員として本に関わるボランティアができればいいなあ(笑)と思っています。本学の学生図書委員がお薦めする本はどれも面白く興味深いものばかりなので、ぜひ図書館に立ち寄ってみてほしいです。(田島)

選書ツアーに行くことで、今まで自分が読んだことのない本と出会うことができました。自分がこれまで触れてこなかった本に関心ももて、新たな知識を得られました。他の図書選書委員の方ともお話が出来、とても楽しかったです。(松尾)

選書ツアーへの参加やポップ作成はとても楽しかったです。ポップ作成のような作業は得意ではないのですが、選んだ本に興味を持ってもらえるように、頑張って作りました。是非私たちが選んだ本を手にとってみてください。(原田)

全体的に新鮮で楽しい活動でした。選書ツアーという今までない経験がとても新鮮でした。しかし、自分が選書した本のポップを作成するという事は意外と難しく、本の内容が伝えられたかどうか少し不安が残りました。

ライブラリーラバーズの活動は製作の際は皆で作りに上げている感じがして、とてもやりがいがありました。ただ、会議の時にもっと積極的に発言すべきだったなと思いました。学生の皆さんがもっと本に関わっていけるような活動をもっと考えたいです。(村上)

学生図書委員としての活動は、中学や高校での図書委員会とはまた違った形で、図書というものに携わることができて、読書好きとして幸せでした。読書好きな方もそうでない方も、今後より一層図書館との距離が近づくようになればいいなと思います。学生図書委員をさせていただき、ありがとうございました。(安波)

普段接する機会の少ない文学部の方々とお話しする機会ができたこと、どういった本を図書館においたら面白いかと違う視点から本を見るようになったりしたので改めて学生図書委員になってよかったと思います。ポップ書き、楽しいです!!(日置)

学生という限られた時間の中で、読書をする暇がないという方もいらっしゃると思います。私自身、大学生になって読書の時間が減り、これではいけないと思い学生図書委員に入りました。この一年で、学生図書委員としては勿論、趣味としら本に触れることが増えました。また、改めて本の良さや、図書館の必要性を知ることができました。残り数ヶ月ですが、少しでも多くの方の読書時間が増えるよう、頑張っていきたいです。(秀島)

昨年度から引き続き、学生図書委員を務めさせて頂きました。様々なジャンルの本に触れる機会が多く、興味の幅が広がりました。図書館側と利用者側との接点が増えたら良いと感じました。活動を通じて出来た繋がりを大切に、ぜひ3年・4年次も委員を続けたいと思います。(東野)

選書ツアーに行ったり、POPを作成したりしましたが、そのどれもがとても楽しかったです。選書ツアーでは誰かに読んでほしいと思える本を選ぶことが出来たのが良かったです。でもライブラリーラバーズのPOP投票で自分のものにあまりシールが貼られていなかったのがとても悔しいです。読んでみたいと思わせることが出来るようなPOPを作りたいと改めて感じました。(河村)

多くの本を読むことができ、人へ発信していくことの大切さを知りました。より『本』への見方が広がり、本の知識が深まりました。選書ツアーを2回経験して、学生がどんな本を読みたいと思っているか、どんな本を好むのかなどを考えて選書することは面白かったです。

ライブラリーラバーズでは筑紫女学園大学独自の活動ができ、より本のジャンルや周知のやり方などが分かりました。今後やってみたいことは作家・ジャンル・地域ごとに分けた小さなフェアや、他大学と合同での活動をしてみたいです。

筑紫女学園大学の書籍は様々なジャンルに精通しているのもっと利用して、大学でしか得られない知識などを深めてほしいです。また、図書委員としてできる要望などがあれば遠慮なく伝えてくれると活動の幅が広がります。(青木)

レ・ン・ケ・イ

－図書館の契約データベース紹介その9－



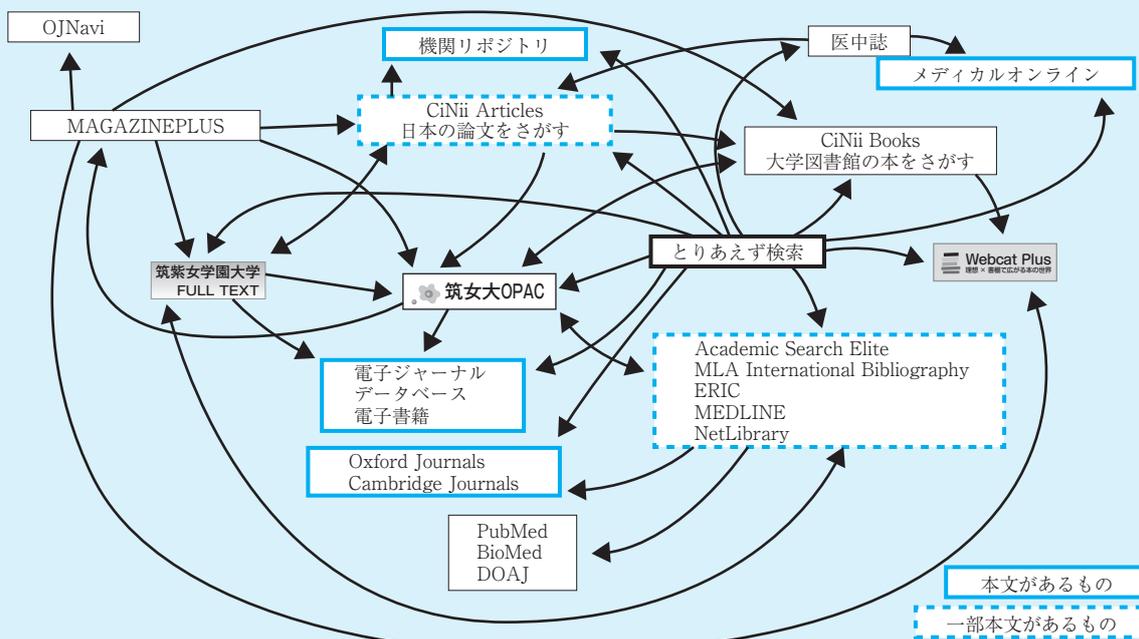
さつまいもの季節ですね。

レポートや論文を書くときは同じテーマについて先に書かれた論文に目を通しておく必要があります。でも、どうやって探すのでしょうか？・・・そこで、さつまいも、です。

まず、図書館の『蔵書検索』でキーワードをもとに検索します。そしてこれはという資料が見つかったら内容を読んで、それから「注」「参考文献」などに書かれている本や雑誌のタイトルでまた『蔵書検索』します。・・・こうして「イモヅル式」に文献を集めることができるのです。

データベースを利用するともっと簡単で効率的です。データベースの「連携サービス」があれば、検索結果からリンクをたどって本文までたどり着くことも可能です。これも「イモヅル式」ですね。

下図は図書館の「契約データベース」の相関図です。参考にしてデータベースを活用してください。



学生図書委員会 主な活動報告

- 5月・学生図書委員会 今年度活動予定について
・ブックハンティング
(第1回選書ツアー：紀伊國屋書店)
- 6月 ブックハンティング選書分 POP 作成
- 7月 第2回選書ツアー：紀伊國屋書店
- 9月 第2回選書ツアー分 POP 作成
- 10月 Library Lovers' キャンペーン2013
参加・展示作業
- 11月 Library News 学生図書委員原稿作成
- 12月 学生図書委員茶話会(反省会)

平成25年度(第9回) 読書感想文コンクール審査結果

- 優秀賞 中尾 亜友美
(人間福祉学科4年)
- 佳作 安波 栞
(日本語・日本文学科1年)
- 佳作 藤木 可蓮
(アジア文化学科4年)

発行 筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館

〒818-0192 福岡県太宰府市石坂2丁目12-1

TEL 092-925-9910 FAX 092-925-3318

URL <http://www.lib.chikushi-u.ac.jp>

印刷 株式会社 昭和堂